

第2回 京都市基本計画審議会 摘 録

日 時：平成22年11月1日（月）10：00～11：40

会 場：京都ホテルオークラ 4階 暁雲

出席者：

| | | |
|--------|--------|--|
| 副会長 * | 浅岡 美恵 | NPO法人気候ネットワーク代表，弁護士 |
| ① | 朝原 宣治 | 北京オリンピックメダリスト，大阪ガス株式会社 |
| ① | 浅利 美鈴 | 京都大学環境保全センター助教 |
| ③ | 荒牧 敦子 | 公益社団法人認知症の人と家族の会京都府支部代表 |
| ① | 池坊 由紀 | 華道家元池坊次期家元 |
| ① | 石田 捨雄 | 株式会社京都環境保全公社取締役会長 |
| ② | 市川 貢 | 北区基本計画策定懇談会座長，京都産業大学経営学部教授 |
| ①部会長 * | 乾 亨 | 立命館大学産業社会学部教授 |
| ② | 井上 元 | 京都府政策企画部長 |
| ② | 岩井 吉彌 | 元京都大学大学院農学研究科教授 |
| ① | 遠藤 有理 | 公募委員 |
| 会長 * | 尾池 和夫 | 財団法人国際高等研究所所長，前京都大学総長 |
| ④ | 大島 祥子 | スーク創生事務所代表，楽洛まちぶら会事務局 |
| ③ | 大前 絵美 | 公募委員 |
| ④ | 織田 直文 | 山科区基本計画策定委員会座長，京都橘大学現代ビジネス学部都市環境デザイン学科教授 |
| ① | 小幡 正雄 | 公募委員 |
| ① | 臈谷 壽 | 上京区基本計画策定委員会委員長，同志社女子大学名誉教授 |
| ③ | 加藤 博史 | 龍谷大学短期大学部社会福祉科教授 |
| ④ | 加茂 みどり | 大阪ガス株式会社エネルギー・文化研究所主席研究員 |
| ④ | 小島 富佐江 | NPO法人京町家再生研究会理事・事務局長 |
| ④ | 齊藤 修 | 京都新聞社相談役 |
| ③ | 繁田 正子 | 京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療疫学講師 |
| ① | 茂山 千三郎 | 大蔵流狂言師 |
| ③ | 菅原 さと子 | 社団法人京都市私立幼稚園協会前副会長 |
| ② | 孫 美幸 | 日本学術振興会特別研究員 |
| ④ | 高田 光雄 | 京都大学大学院工学研究科教授 |
| 副会長 * | 立石 義雄 | 京都商工会議所会頭 |
| ② | 田中 翔 | 公募委員 |
| ③ | 田中 誠二 | 学校法人大和学園学園長 |
| ④ | 谷口 知弘 | 中京区基本計画策定委員会座長，同志社大学大学院総合政策科学研究科教授 |

| | | | | |
|-----|-----|---|--------|---|
| ④ | 部会長 | * | 塚口 博司 | 立命館大学工学部都市システム工学科教授 |
| ④ | | | 土井 勉 | 右京区基本計画策定委員会座長, 京都大学大学院工学研究科・医学研究科安寧の都市ユニット特定教授 |
| ④ | | | 富樫 ひとみ | 公募委員 |
| ③ | | | 長屋 博久 | 京都市PTA連絡協議会前副会長 |
| ② | * | | 新川 達郎 | 未来の京都創造研究会座長, 同志社大学大学院総合政策科学研究科教授 |
| ② | | | 西村 明美 | 柊家株式会社取締役 |
| ③ | | | 西脇 悦子 | 京都市地域女性連合会会長 |
| ① | | | 濱崎 加奈子 | 伝統文化プロデュース連REN代表 |
| ④ | | | 藤井 聡 | 京都大学大学院工学研究科教授 |
| ④ | | | 藤田 晶子 | フリーエディター |
| ① | | | 細田 一三 | 日本労働組合総連合会京都府連合会会長 |
| ② | * | | 松山 大耕 | 未来の担い手・若者会議U35議長, 妙心寺塔頭・退蔵院副住職 |
| ④ | | | 光本 大助 | 公募委員 |
| 副会長 | * | | 宗田 好史 | 次代の左京まちづくり会議座長, 京都府立大学大学院生命環境科学研究科(環境科学専攻)准教授 |
| ① | | | 村井 信夫 | 各區市政協力委員連絡協議会代表者会議幹事 |
| ③ | | | 本村 哲朗 | 公募委員 |
| ③ | | | 山内 五百子 | 社団法人京都市保育園連盟常任理事 |

以上47名

(50音順, 敬称略)

(肩書きは平成22年11月19日現在)

※ 氏名の前に付した記号は下記を表す

①: うるおい部会委員 ②: 活性化部会委員 ③: すこやか部会委員 ④: まちづくり部会委員

*: 融合委員会委員 (委員長: 宗田副会長, 副委員長: 平井委員)

1 開会

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

予定の時刻が参りましたので、只今より「第2回京都市基本計画審議会」を開催させていただきます。各委員の皆様方におかれては、大変お忙しい中を御出席いただき、お礼申し上げます。

会議に先立ち御報告させていただきます。本日は、70名の委員中47名の方に御出席いただいております。京都市基本計画審議会条例第5条第3項の定足数を満たしている。また、京都市からは、門川市長、星川副市長、細見副市長、由木副市長が出席している。

なお、本日の審議会についても公開とし、報道関係者の席を設けるとともに、市民の皆様方に傍聴いただいている。以上、よろしくお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。「次第」、「配席図」、「京都市基本計画審議会名簿」、「資料1京都市基本計画策定に向けたこれまでの主な取組」、「資料2京都市基本計画答申案」、「資料3京都市基本計画の名称等について」、以上が配付させていただいている資料である。資料に不足等があればお申し付けいただきたい。

それではここからは、尾池会長に進行をお願いします。

尾池会長

ここからは、私が進行を務めさせていただきます。

昨年10月から京都市基本計画の審議を開始し、これまでに4つの各部会、融合委員会において、熱心に御議論をいただけてきたことに、御礼申し上げます。

本日はこれまでの審議経過を踏まえ、作成された「京都市基本計画答申案」について、宗田融合委員会委員長から御説明いただき、委員の皆様方から御意見を賜り、新しい基本計画の答申としてまとめて参りたいと考えている。

また、いよいよこの計画を推進していく段階に入るので、計画をいかに実現していくかというところまで含めて御意見をいただければと思う。

本日が最後の審議会となるので、御協力の程、よろしくお願い申し上げます。

それでは早速議題に入る。

まず、報告案件の(1)、これまでの基本計画の策定に係る活動報告を事務局から願います。

事務局（大田総合企画局京都創生推進部長）

それでは、初めに、これまでの取組の大きな流れを振り返りたい。

まず、平成19年度に、第1期基本計画を点検し、総括するため「京都市基本計画点検委員会」が開催された。

続いて平成20年度から翌21年度にかけて、基本計画の策定を検討する際に必要な策定の方針や重点施策の案などの素材を作成するため「未来の京都創造研究会」を開催した。

これと並行して、1万2千人市民アンケート、概ね15歳以上35歳未満の若者からの「若者提案」事業として「私と京都のマニフェスト」「京（みやこ）・未来予想図」の募集、市内の幼児、児童、生徒たちからの「きょうと絵画・絵日記・ポスター」の募集などの市民参加事業を実施した。

これらの取組による審議素材づくりを経て、昨年平成21年10月に本審議会が発足し

た。

では、それぞれの取組を簡単に振り返る。

まず第1期の基本計画を点検し、総括するため開催された、平成19年度の基本計画点検委員会についてである。

本委員会は、平成13年1月に策定された第1期基本計画の進捗状況や、残された課題について点検を行った。

委員会は京都市基本構想等審議会の会長であった西島安則先生を委員長に22名の委員で構成され、安らぎ部会、華やぎ部会、パートナーシップ部会の3つの部会を設置し、政策ごとの評価や今後の推進に向けた課題の検討を行っていただいた。

検討の結果は「京都市基本計画点検結果報告書」として取りまとめられた。

すべての政策分野のきめ細かい御検討を踏まえ、総合的な評価として「基本計画は全体として相当達成された」と高い評価をいただいた。

また、次期基本計画の円滑な策定に向けて、準備作業に着手すべきとの提言をいただいた。

次に、平成20年度から21年度にかけて開催された「未来の京都創造研究会」である。

研究会は、市内各大学の新進気鋭の若手研究者を中心とする12名の委員で構成され、同志社大学大学院教授の新川達郎先生に座長をお願いした。

研究の初期段階から委員の皆様が主体的な活動を行っていただき、また市の若手公募職員30名も参画して、本審議会における審議の方向性や素材を提供する報告書を取りまとめていただいた。

また、研究会の検討と並行して、市の新規採用職員の研修を兼ねて、まちかどで市民に直接インタビューする「市民聞きとりアンケート」を行った。

市民の皆様からの御意見はワークショップ形式で集計、分析され、研究会の検討素材として活用された。

研究会では、全体の会議とともに、4つのテーマに即した「ユニット」に分かれ、委員と職員のコラボレーションにより、重点戦略案のアイデアの掘り下げがなされた。

ワークショップ手法による融合的な観点からの議論や企業へのヒアリングなど、延べ90回以上にも及ぶ活動により、基本計画案の審議の素材づくりが行なわれた。

これらの検討を踏まえ、次期基本計画の在り方として、共汗型計画として策定すること、戦略的かつ簡潔明瞭な計画とすること、策定過程で市民が主体となり、市民と市役所が協働する仕組みを作ること、計画策定後は点検委員会の定期的な開催などにより計画が進化する仕組みを作ることなどの御提言をいただいた。

また、京都市が目指すべき未来像と重点戦略についても御提案をいただいた。

これらを取りまとめた研究会報告書を市長に御提出いただいた。

続いて、この間に取り組みされた様々な市民参加事業である。

まず、「次期京都市基本計画策定のためのアンケート調査」である。

次期基本計画の策定に当たり、市民の皆様の様々な御意見や御提案を幅広くお聞きし、計画に反映させるため、外国籍市民を含む18歳以上の市民1万2千人の皆様にご協力をお願いし、4,828通の回答をいただいた。

調査結果だが、家族に対する価値観として、仕事より家族の幸せを優先する人が約7割に達するといったことが分かった。

また、京都市の施策の重要度について、「交通・道路」などのハード施策を重要とする

回答が平成9年度に行った前回調査から減少し、一方で「子育て支援」、「学校教育」などのソフト施策を重要とする回答が大きく増加している点が特徴的であった。

次に、「若者提案事業」である「私と京都のマニフェスト」と「京（みやこ）・未来予想図」である。

若者自身の夢とそれを達成する過程、関連する京都市の政策を時系列で表した「私と京都のマニフェスト」、視覚的な媒体を用いて未来の京都を自由に表現する「京（みやこ）・未来予想図」に併せて607点の御応募をいただき、優れた作品は市長から表彰させていただいた。

そして、「きょうと絵画・絵日記・ポスター」である。

市内の保育園児・幼稚園児・小・中学生を対象に、「だいすきなきょうと」をテーマとする絵画や、未来の京都をテーマとする絵日記やポスターを、合計2,556点も寄せていただいた。

優秀作は市長から表彰させていただくとともに、京都市交通局の「トラフィカ京カード」のデザインにも採用させていただいた。

また京都大学大学院の大山泰宏准教授の監修の下に集計、分析した結果を、審議の素材として皆様にお届けした。

続いて、本「京都市基本計画審議会」である。

本審議会は、各界各層から幅広く御参加いただいた70名の委員で、昨年10月5日に発足した。

第1回総会において審議会の会長には前京都大学総長の尾池和夫委員が選出された。

また副会長には、立石義雄委員、浅岡美恵委員、宗田好史委員の3名が選出された。

この日から、1年あまりにわたる検討がスタートした。

第1回総会においては、政策横断的な検討を進める融合委員会と、政策分野別の検討を行う4つの共汗部会が設けられた。

第1回委員会では、融合委員会メンバー以外の審議会委員にも多数御参加いただき、ワークショップ形式により、京都の未来像、重点戦略に係る意見交換が行われた。

第2回以降は、「未来の担い手・若者会議U35」からの御提案もいただきながら、第1回での議論から抽出された未来像や重点戦略の柱立てや磨き上げを行っていただいた。

融合委員会は、審議会正副会長及び各部会の正副部会長など15名の委員から構成され、宗田好史委員長、平井誠一副委員長のもと、合計7回開催された。

次に4つの共汗部会である。

うるおい部会では、環境、人権・男女共同参画、青少年の成長と参加、市民生活とコミュニティ、市民生活の安全、文化、スポーツの7つの分野について議論がなされた。

その中で、地域コミュニティが基本、つながり合う、支え合う、わかり合う、「多様さを認め合う、子どもに焦点を当て、10年後の青年たちを主人公に考える、「わたしは環境の一部」であり「わたしは社会の一部」であることから、「わたしは大切にされなければならない」と同時に「わたしは周りを大切にしなければならない」。さらに「わたし自身が動かなければならない、働きかけなければならぬ」、マイナスばかりを語るのではなく、「希望の物語」を紡ぎ出す、といったキーワードが導き出され、多様な政策分野をつなぐ議論がなされた。

うるおい部会は、乾亨部会長、梶田真章副部会長をはじめ、17名の委員で構成された。

次に活性化部会である。

活性化部会では、産業・商業、観光、農林業、大学、国際化の5つの分野と行政経営の大綱について議論がなされた。

その中で、ひとが集まり交流することによって活力が生まれる、ブランディング（本当の京都の良さを伝え磨く）、市民が誇らしく思えるまち、子どもに京都の良さを伝えるといったキーワードが導き出された。

活性化部会は、堀場厚部会長、秋月謙吾副部会長をはじめ、17人の委員で構成された。次にすこやか部会である。

すこやか部会では、子育て支援、障害者福祉、地域福祉、高齢者福祉、保健衛生・医療、学校教育、生涯学習の7つの分野について議論がなされた。

その中で、かけがえのないのちを大切に（自尊感情、死生観）、すべての市民が違いをともに認め、支え合う、地域やひととのつながりを重視し、生きる力を育む、市民・地域が支え合い、子どもを共に育む、幼児から大人まで学び、成長する、といったキーワードが導き出された。

すこやか部会は、森洋一部会長、西岡正子副部会長をはじめ、16人の委員で構成された。

最後にまちづくり部会である。

まちづくり部会では、歩くまち、土地利用と都市機能配置、景観、建築物、住宅、道と緑、消防・防災、くらしの水の7つの分野について議論がなされた。

その中で、「保全・再生・創造」の枠組み、持続的な都市づくり、京都らしさの継承・充実、都市空間のマネジメント、といった都市構造の方向が浮かび上がった。

まちづくり部会は、塚口博司部会長、上村多恵子副部会長をはじめ、16人の委員で構成された。

4回の融合委員会と各5回の共汗部会の議論を経て、次期基本計画の第1次案が取りまとめられ、今年5月から6月にかけて1ヶ月間のパブリック・コメントが審議会により実施された。

市民しんぶんや、ホームページ等で計画の概要を御紹介し、意見を求めたほか、「未来の担い手・若者会議 U35」のメンバーによる「出前パブコメ」など、従来にはない手法での攻めのパブコメも実施され、322名の方から合計692件の貴重な御意見をお寄せいただいた。

第1回パブリック・コメントでの御意見を受けて、2回の融合委員会と各2回の共汗部会が集中的に開催され、パブリック・コメントを反映した計画の練り上げが行われた。

そして、この9月には第2次案が取りまとめられ、2回目のパブリック・コメントが実施された。

2回目も、未来の担い手・若者会議U35による出前パブコメなどの活動が精力的に取り組みられ、第1回を上回る568名の方々から合計964件に及ぶ貴重な御意見をお寄せいただいた。

若い世代の御意見も数多く寄せていただいた点は、従来のパブリック・コメントには見られない大きな特徴である。

また、第1回パブリック・コメントに合わせて、市民の皆様にも親しまれる基本計画の名称募集を行いました。これには155件の提案が寄せられた。

会長、融合委員長、副委員長による名称審査会と融合委員会で御審議いただいた結果、名称は「はばたけ未来へ！ 京（みやこ）プラン」に決定した。

本日、入賞作品の表彰式を行う。

10月26日に、第7回融合委員会が開催され、本日の総会に提出している基本計画答申案をおまとめいただいた。

以上が基本計画策定に係る取組の経過である。

基本計画審議会の委員の皆様には、1年1ヶ月という短い期間に、総会2回、融合委員会7回、共汗部会合計28回、総参加者数合計472名、総議論時間88時間という、精力的な議論を行っていただいた。

また、アンケートに回答いただいた方6,022名、作品を御提案いただいた方3,294名、計画への御意見をいただいた方890名、審議会を傍聴していただいた方113名という、多くの市民の皆様の御参加もいただいた。

以上で、基本計画の策定にかかる活動報告を終わる。

尾池会長

次に報告案件の(2)、「未来の担い手・若者会議U35」の松山議長から報告をお願いする。

松山委員

冒頭に御覧いただいたのは、5月に開催したシンポジウムのオープニング映像である。「どうすんねん？京都？」って気持ちになっていただけたらどうか。市民のみなさんに「未来の京都をどうしたらいいのか？」を考えるきっかけにして欲しい、それが我々の狙いであった。

この集合写真は、そのときのものである。みなさん、多忙な中、時間を削って本当によくがんばっていただいた。

そんな皆さんのがんばりが、少しでも皆さんに伝わるような報告にしたい。

さて、市民のみなさんに「若者会議って、なに？」と聞かれたとき、このようなチラシを渡した。

簡単に言うと、市民のみなさんのちょっとしたつぶやきを、パブリック・コメントなどを通じて、審議会に伝えること、が役割である。

さらに、若者会議からも「ワーク・ライフ・バランスが大切！」といった提案もしてきた。

まず、市民のみなさんに、基本計画審議会で、どんなことを話し合っているのかを伝えるために、レポートを発行した。

毎回、若者会議のメンバーが傍聴して、レポートを作成してきた。

左が前半、右が後半、ちょっとデザインも変えた。

第3回世界アーティストサミットでは、6人の若手アーティストと「京都の強み」について意見交換した。アーティストからは、「香り」など、とてもユニークな観点から意見を出してもらった。

若者会議のメンバーは、夜遅くまで会議を重ねて、「真のワーク・ライフ・バランスの実現」などの提案をまとめた。

第1次案には提案が反映されていなかったが、「もう一度提案しよう！」ということになり、再度提案した。

この写真は、第5回融合委員会で再度提案したときのものである。

ここでも「真のワーク・ライフ・バランス」を提案した。

写真右手は、若者会議副議長の越村美保子さんである。3人の子どもの母親でありながら、社会貢献活動にも積極的に関わられており、この提案には彼女の熱い思いが込められている。

結果として、未来像と重点戦略に掲げられることになった。

5月29日には、「どうすんねん京都!？」と銘打って、シンポジウムを開催した。場所は、烏丸御池の新風館で、誰でも参加できる形態にした。当日は、審議会委員の皆さんにパネリストとして御登壇いただいた。この場をお借りして御礼申し上げる。

当日は、楽しく基本計画を知っていただくための工夫を凝らした。

左手の写真は、若者会議のメンバーでもある、芸妓、ジャズシンガーの真箏さんによるミニライブである。

右手の写真は、セグウェイという二輪自動車の試乗会の様子である。

当日は、約1万人の方々が来場されたとのことである。

続いて、パブリック・コメントに関する取組を御紹介する。

先ほどの御説明にもあったかと思うが、多くの意見が寄せられ、非常に大きな成果を上げたと考える。

まずはじめに、パブリック・コメントのマスコットキャラクター「パブコメ君」をデザインした。

これは京都市の若手職員の方がデザインした。

ここに掲げているホームページのバナー、立て看板、のぼりなどをはじめ、あらゆる媒体に使用した。

今後も、京都市のパブリック・コメントの際に用いていただければ、と考えている。

パブリック・コメント募集のために作成した冊子には、子どもからの絵日記や、審議会委員の皆様の似顔絵を盛り込んだ分かりやすい冊子づくりを提案させていただいた。

さらに、「京都の未来をいっしょに考えよう」というキャッチフレーズで、市民の皆さんに呼びかける冊子とした。

作成に際しては、平井副委員長と数回打合せをさせていただいた。

冊子の作成に加え、若者会議が独自に意見提出用のチラシを作成した。

表紙はパブコメに因んで「米粒」とし、「出前パブコメ」などで活用した。

京都市内各所でパブコメを実施したところ、各地で模造紙に記した茶碗一杯が、意見が書かれた米粒で満たされた。

また、9月には、京都新聞の記事に取り上げていただき、尾池会長と門川市長とともに、若者会議のメンバーである真箏さんが鼎談に参加された。

北山杉を用いて、市民の皆さんから意見を入れていただく「パブコメ巣箱」を作成した。

左は、巣箱を作成していただいた京北町の藤原さん、真ん中は、地下鉄各駅に設置した際に御協力いただいた、京都市交通局の坂井さん、そして、右の写真は、パブリック・コメントを投函する京都タワーマスコット「たわわちゃん」である。

このほか、各区基本計画の策定でも、右京区や南区で巣箱が活用されたほか、山科区では「意見を増やす(巣)箱」としてオリジナルの巣箱が設置された。

このパブコメ巣箱については、9月号の市民しんぶんの特集記事を組んで、市民の皆さんにアピールした。

この記事は、若者会議メンバーである、NPO代表のさとうさん、KBS京都キャスターの竹内さんへのインタビューで構成されている。

さとうさんは、パブリック・コメントチームのリーダーとして、取組を引っ張ってくれた。

パブリック・コメント回収に大きな成果があったのが、直接市民の皆さんと語り、意見を出していただく「出前パブコメ」である。

この写真は、市立西京高校の生徒さんとの意見交換した際の集合写真である。

当日、審議会委員からは、山内委員、遠藤委員に御参加いただいた。

三条会商店街では、道行く方々から意見を聴取した。ゆるキャラの3人が、道行く人に声をかけてくれた。

京都文化祭典連絡協議会座長である平井委員の御協力により、毎年恒例になった京都文化祭典のオープニングイベントで、パブリック・コメントのブースを出した。市民の皆さんには、お茶とお菓子でくつろぎながら、意見を出していただいた。

若者会議メンバーでもある西村さんの御尽力により、京都商工会議所青年部のみなさんからパブリック・コメントを頂戴することができた。青年部の吉川会長からは「意見を聞くだけでなく反映を。我々も全面的にタッグを組む。」との言葉を頂戴した。

梅小路公園全体で開催される京都音楽博覧会でもブースを出した。今年はベンチャーズが出演。当日は、ゆったりとした雰囲気でも来場者との対話が進み、出前パブコメが一番多い230人からの意見を聴取することができた。

そして、現在、平成23年1月に、基本計画の策定を周知するイベントの開催に向けて、企画・準備を進めている。多くの皆様に御参加いただけるようなイベントにしたいと考えている。審議会委員の皆様には、当日の来場や周知に向けて、是非とも御協力を賜りたい。

以上で、私からの報告を終わる。

それでは最後に、若者会議を代表して、4名の皆さんにお越しいただいているので、一言ずついただく。副議長の越村さん、シンポジウム・イベント担当の竹内さん、パブリック・コメント担当のさとうさん、そして尾池会長と門川市長との鼎談で若者会議の取組を解説していただいた真箏さんである。

みなさんから、一言ずついただきたい。

越村氏

若者会議の活動で幅広いメンバーと、長い期間、色々な活動を行った。ワーク・ライフ・バランスの反映で、意見を述べさせていただく機会を頂戴した。基本計画の審議過程で妊娠、出産という機会を得た。このような機会をより多くの女性に与え、サポートするべきだという発言をさせていただいた。

これからも若者会議の活動は続くので、御支援をお願いします。

竹内氏

シンポジウム部隊のリーダーを務めさせていただいている。若者会議は、基本計画に興味をお持ちでない市民の方々に、どうすれば知っていただけるか、ということ議論した。週1回ぐらいのペースで議論している。プライベートでも集まっている。この若者の活気というものが京都の底力、パワーである。自分がリーダーということで意見が

通ると思っていたが、ことごとく否定される、このあたりも市民の皆さんのパワーを感じる点である。

我々の活動はまだまだ続く。平成23年1月にイベントが控えており、これから活動が佳境に入っていく。皆さんの御協力をいただきながら、素晴らしいイベントとしていきたい。

さとう氏

パブリック・コメント部隊のリーダーを務めている。パブリック・コメントをどうするか分からない状態から、メンバーでワークショップを積み重ねながら、効果的な方法を検討した。数的に結果が出たのは個人的にも自信になる。

これからもパブリック・コメントがもっと活用される世の中になってもらえれば、と思っている。3月まで任期があるが、2つのことをやっていきたい。1つは、生み出した手法を今後の市政に生かしてもらおう道筋作り、もう1つは、市民参加の京都モデルとなるように報告書を作成したい。これからは発信に力を入れていきたいと考えているので、皆様の御協力をお願いしたい。

真箏氏

一市民として、パブコメやシンポジウムに参加させていただいた。市民の皆さんに伝えることの難しさを感じている。若者会議に参加させていただいたおかげで、尾池会長と門川市長と鼎談する機会を得た。シンポジウムに向けて頑張っていきたい。

尾池会長

次に、京都市基本計画答申案の審議を行いたい。まず、答申案の説明を宗田融合委員会委員長から願います。

宗田融合委員会委員長

それでは、答申案について御説明する。

名称については「はばたけ未来へ！京プラン」とする。第1次案のパブリック・コメント募集時に、123名、155件の応募を頂戴した。一つ一つ確認したところ、「未来」、「市民力」、「絆」という言葉が多かった。これを最大限に活かすようにして、尾池会長と平井副委員長に御協力いただき、優秀賞、佳作を選出した。

優秀賞を尾池会長に手を加えていただき、分かりやすい名称としていただいた。

まず、「計画の位置付け」である。10年間の計画であるということに加え、行政だけでなく、市民、NPO、経済団体など様々な京都で活躍する方々の力をいただきながら取り組む、共汗型計画であるということ、優先順位を明確にしながら限られた資源を活用する戦略的な計画であるということを重視している。

「計画の背景」には、①人口減少と少子高齢化、②地球温暖化の加速、③グローバル化の進展、④低経済成長と厳しい京都市財政の4点を、特に注目すべき社会情勢の変化として掲げている。このような苦しい情勢の中で、次の10年をどうするのか、という議論をしてきた。

非常に沢山のパブリック・コメントや関係機関からの意見を頂戴したが、この計画の背景に関しては、最後の融合委員会でも議論した。人口減少と少子高齢化という問題に

関して、次の10年間、市民の皆さんとどう対応するか。人口減少をそのまま受け入れるのではないが、厳しい情勢が続くことは事実である、その中で何が根本的な解決策となるのか、という点から幅広く議論してきた。

その次に来るのが「都市経営の理念」であり、京都市政だけでなく、市民の理念である。「生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く」としている。これも再三、字句の訂正が融合委員会でなされた。

「京都の未来像」は、当初5つであったが、パブリック・コメント、未来の担い手・若者会議U35からの提案を受けて6つになった。

第1回融合委員会でワークショップを行ったときの、委員34名と行政16名の思いを基にその後の審議過程で練り上げられ、まとめられた。これまで京都市が抱えてきた課題を、今後、どのように進めるか、市民の願いをどのように進めるか、という議論をした。

それでは、個々の未来像を見て行きたい。

「環境共生と低炭素のまち・京都」だが、低炭素のまちを実現するのは皆の願いであるが、京都らしい手法で実現できないか、という点に特徴がある。

「日本の心が感じられる国際都市・京都」だが、京都はこの間、景観政策はじめ、美しい京都をつくるために努力してきた。市民の皆さんにも御協力いただいていた。次に何を目指すべきか、形にこだわるだけでなく、京都の使命として、どんな京都を日本、世界に提示するかを考えるということである。観光や環境の新しい計画の考え方にも関わってくる。

「環境と社会に貢献する産業を育てるまち・京都」だが、京都型経済とは、京都の知恵を生かし、新たな価値を生み出すことである。立石副会長も仰るように、温室効果ガス25%削減を京都のビジネスチャンスにつなげるために、京都の事業者の皆さんと取り組んでいくという趣旨である。

「学びのまち・京都」だが、大学のまち京都プラン21が着々と実行され、大学コンソーシアム京都をはじめ、大学との連携は深まってきた。これをどう活用して次の未来を開いていくか。京都のまちに市民とともにどのような産業、文化を切り拓いていくか。

「支え合い自治が息づくまち・京都」だが、京都には住民自治の伝統が息づいている。このうえに、我々の生活、様々な文化行事が続けられている。市民だけでなく、観光客も京都を愛でている。積極的に我々も加わることが必要である。絆が希薄になっている中で、新しい世代にどう自治の伝統を引き継ぐかが課題である。

そこで、未来の担い手・若者会議U35にも御提案いただいた「真のワーク・ライフ・バランスを実現するまち・京都」である。まさに次の時代、京都の文化、日本の心などを実現するためには、今のライフスタイルでは決して夢は実現できないという指摘を受け、社会貢献を重視し、市民の絆を大切にするという提案を受けた。この未来像が加わったことで、他の未来像を実現する可能性が高まったと考える。

次に、「重点戦略」では、京都の未来像を実現するための特に優先的に取り組む方策として、11の「重点戦略」を提示している。どれも市民の理解と参画なしには進められない。実現されて、未来像に近付いていく、というものである。現在取り組まれているものもあるが、なかなか進まないものについても、少しでも次の10年に実現できるよう進めていくということである。複数の行政分野にまたがる施策を融合することで進めていく戦略もある。例えば、歩くまちは、観光、商業、交通など、より多くの分野を加える

ことで、より多くの市民の皆さんに、より多くの意味で関わっていただける。融合という観点を大変重視している。そして、この基本計画全体が市民とともに共汗して進める計画となっている。

「政策の体系」では、「キャッチフレーズ」でその分野で目指す方向性、「基本方針」で今後 10 年間に取り組む基本的考え、「みんなでめざす 10 年後の姿」では、市民と行政が共汗・協働して実現する姿を掲げている。色々な部局にまたがっている課題も、融合の考え方で、色々な部局にまたがりながら進めていっていただくことにしている。

「行政経営の大綱」では、市民とともに京都の未来を切り拓くという内容になっている。行財政改革やマネジメントの仕組みなど、基本計画全体を進めていくための基盤であり、都市経営の基本理念である。市民参加や行政評価、財政状況など、行政経営に関する主な「現状・課題」、参加と協働による市政とまちづくりの推進など、行政経営を進めるに当たっての「基本方針」が提示されている。財政状況や社会経済状況は厳しくなっているが、限られた資源を活用しながら、市民の皆さんにも襟を正していただき、市民に開かれた行政運営をするということである。

「計画の推進」では、実施計画を策定し、推進することが記載されている。

並行して、11 行政区での区計画を掲げている。先月、各区策定委員会の座長と意見交換を行い、改めて 11 行政区の計画が出揃ったところで、計画の内容をお示ししたい。

また、都市計画マスタープランの策定など、分野別計画が策定され、実施される。これらに未来像、重点戦略、政策の体系を有効に生かしていただく。その他、点検委員会の設置のほか、計画の実施状況を毎年度市会へ報告し、市民に公表することなどが記載されている。

今後、審議会から市長に対して答申された後、市議会でも御審議いただく。更に、若者会議からも御提案いただいたように、市民の皆さんと討議する場を設けていただく。

各共汗部会で御議論いただいた結果は、議事録を全て読ませていただき、融合委員会で議論させていただいたことを最後に御報告させていただきます。

尾池会長

続いて、意見交換に移る。御意見・御質問等があれば、自由な観点で簡潔に御発言をお願いしたい。

立石副会長

素晴らしい計画に仕上げていただいた。ビジョン作りに参加した我々としては、低経済成長と厳しい京都市財政の中でどこまで実現できるのか、市民として、明日への夢と財政的な痛みを背負いながらの船出となることを認識し、課題解決に汗をかいていく決意が必要。

京都の未来像を描くときには、市域だけでなく、京都府、隣接地域とも共有できる未来像を描く必要があると申し上げてきたが、それが満たされたものであると思う。そのことが地域の絆、市民の絆を強くしていくことにつながる。会議所でも今後 3 年間のニュー京商ビジョンセカンドステージをまとめようとしているが、中小企業のイノベーションを誘発していくような取組をこの基本計画の下、府、会議所などのオール京都で進めていくことが大切である。

魂を入れたお互いの行動なくして計画の実現はないことを肝に銘じて今後の京都市づ

くりに協力して参りたい。

岩井委員

市民は納税で市政にかかわっており、これ以上汗をかけないとの、厳しい御意見がパブコメで寄せられている。この計画は、市民の共感を得ることに對し樂觀的に見える。自治会等は従来からの活動で手いっぱい、新たな提案を受け入れられない。

共汗を推進していくために従来組織に新たに責任を負わせることは難しく、賛同を得て活動していただく仕組み、それも行政から強制するのではなく、あくまで自主的に動いてもらうことが必要。共汗の仕組みを作ることを早急に検討するための組織が必要ではないか。

尾池会長

汗をかいて税金を納めてきたのにこれ以上汗をかけないという意見は私も印象に残っている。大事なポイントを御指摘いただいた。この審議の中でも十分に意識してきたが、実行に移す段階で、そのための仕組みが必要との御意見を十分に受け止め、新しい仕組みで市民参加を実現していただきたい。

加藤委員

2行目の「主人公たる」について、主人公は物語の主役という意味合いがあるが、「公」には、「ハチ公」など別のイメージもある。日本国憲法にある「主権者」という言葉の方がよいのではないか。

また、京都は色々な世界の文化を取り入れて発展してきた、日本の心を培ってきた素晴らしい都市であり、「日本の心を感じる国際都市・京都」の中に、多文化共生、世界の文化との交流の視点が入れられたらありがたい。「世界の様々な文化を尊重しつつ」などが入ればと思う。

尾池会長

多文化共生は基本的な思想。文化とはもともとローカルなもので、グローバルにすべてを取り入れることはなかろう、ということで常識として入っているものと考えている。

宗田融合委員会委員長

「主権者」については、専門家の方の意見を頂戴してはどうか。

新川委員

主権者については、日本国憲法に定められているが、「主権」という言葉は国に対する関係で一般的に使われており、これを自治体で使えるかは法学的に議論があるところ。地域主権改革として入れているケースもあるので、慎重に御検討いただければと思う。

尾池会長

「主権者たるべき市民」という表現ならば許容されるのではないか。

小幡委員

多くの項目があるので、実施計画では年度別に重点をつけてもらいたい。

尾池会長

市会に諮り、京都市として実行する段階に移る。実行の中で御意見を取り入れてもらいたい。

藤井委員

「主権」について、法学的には「たるべき」を付けても議論の余地がある。国の主権は安全保障も含まれるため、慎重な議論が必要。原案の方がよいのではないか。

土井委員

未来像の真ん中に来るものとして、「生活を支えるコンパクトなまちづくり」などがあるはず。それがあれば、今後10年でどういうまちを作るかが、一言でわかるのではないか。

尾池会長

最終的にそういうものがあれば、説明しやすい。記録にとどめて活用させていただきたい。

茂山委員

「日本の心」に引っ掛かる。「京都の心」、「和の心」ではないか。「日本」と聞くと東京のことと思われる危険性もある。

尾池会長

1300年の歴史を持つ京都が日本のルーツ、京都の心が日本の心としてもよいのでは、との議論があった。和の心、もったいない、なども含めてそれもひっくるめて「日本の心」とした経過がある。「日本と言えば東京」とならないよう、京都としての日本全体に対しての強い発信が含まれると考えているので、原案のままとしたい。

また、先ほど御議論があった主権についても、原案のままとしたい。

それでは、答申案の決議に移る。市長に提出する答申の内容について、答申案どおりとさせていただきたいと思うがよろしいだろうか。

(異議なしの拍手)

尾池会長

それでは、答申案を当審議会の答申とさせていただきます。

それでは、次に「基本計画の名称」募集の表彰式に移りたい。これ以降の進行は、事務局に戻す。

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

皆様に表彰状をお受け取りいただくので、入賞者の皆様のお名前をお呼びする。呼ば

れた方は、御返事いただき、マイクの前に出ていただきたい。

(表 彰)

優秀賞 金井深水 (かないふかみ) 様
佳作 林睦子 (はやしむつこ) 様
佳作 萩原三義 (はぎはらみつよし) 様
佳作 深田雄志 (ふかたゆうし) 様

事務局 (柴山総合企画局政策企画室長)

それでは記念撮影に移る。

(記 念 撮 影)

事務局 (柴山総合企画局政策企画室長)

それでは、ここで門川市長から一言御挨拶を申し上げる。

門川市長

尾池和夫会長をはじめ基本計画審議会委員の皆様方には、1年以上にわたり深い議論を重ねていただいた。委員の皆さんの専門性、現場において実践されていることを踏まえて、素晴らしい基本計画案を策定していただいた。本日の議論を聞いていても、大変深い議論を重ねていただいたことが分かった。

さて、第1回総会において、私から3つのことをお願いした。1つ目は、地域主権の時代のモデル都市となるための、共汗型計画として、新しい自治の形を発信していく羅針盤となるものにしていただきたい、ということをお願いした。

名実ともに、従来型の行政計画の域を超え、市民、NPO、企業、大学など多様な主体と行政とが、夢と希望、危機感と責任感、役割分担と行動を共有する「共汗型計画」としておまとめいただいた。「生活者を基点に、参加と協働で地域主権時代を切り拓く」という「都市経営の理念」で示されているとおおり、「私たち京都市民」を主語とする6つの未来像はこれからの京都の在るべき姿がしっかりと描き出されている。

2つ目として、「徹底した市民参加」と「徹底した職員参加」である。

第1回総会において「審議会委員の皆様の徹底した御意見をいただきながら審議を進めて参りたい」との尾池会長からの力強いお言葉のとおり、実に37回、5,000分以上もの会合を重ねていただいた。本計画案はまさに、皆様の知恵と汗で徹底的に練り上げていただいた京都の叡智の結晶である。

同時に、京都市役所でも侃侃諤諤の議論を行った。皆様の専門性と行政の課題意識が融合し、見事な案ができた。

また、若者会議の皆さん、ありがとうございます。本当に、市民の現場に出ていただき、積極的な啓発と意見の掘り起こし、くみ上げをしていただいた。私もあちこちでお会いし、感激した。東京からお越しの方が「京都のまちはすごい、こんなことされているのか。」と驚いておられた。基本計画が出来てからが大切ということで、1月にシンポジウムを開催していただくなど、様々な取組を進めていただいている。

既存の組織だけでは難しいのではないかと、地域のコミュニティを含めてという御意見

もいただいた。そんなとき、若者会議のボランティアの活動が1つの答えだと思う。市民のきっかけづくりが大切である。市民参加、計画が出来てから共汗型の進行が大切だと思う。私たちも、しっかりと行動していきたい。

3つ目として、「徹底した未来志向」と「徹底した戦略性の追求」である。

若者会議からの提案も踏まえ、6つの未来像、11の重点戦略というように、未来志向、戦略性があるものとなった。答申を頂戴したうえで、しっかりと京都市として市議会に説明し、市議会の議論を経て、基本計画を作り上げ、最後に実施計画を作って行きたい。

審議会としての会合は本日が最終であるが、これからが大事である。引き続き委員の皆様それぞれの立場での御理解と、積極的な意見を仰っていただき、共に汗して京都の未来を作って行きたい。

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

それでは、最後に、尾池会長から閉会の御挨拶をお願いします。

尾池会長

門川市長から「これからが勝負である」と仰っていただいた。11月4日に答申する予定である。したがって、その際に色々コメントを付けたいと考えているので、それまでに、私まで御意見をお寄せいただきたい。

70名の委員の皆さん、市役所の皆さん、市議会の皆さん、本当によく読んでいただいた。市の外、京都市民でない方も色々な意見を下さった。中身の濃い議論ができた。1年以上も前から準備をしていただいた。パブリック・コメントにはお返ししなければならぬということ、若者会議のメンバーにも御活躍いただくことである。

お米についてであるが、最近、「米を食べ過ぎると脂肪になる」というのが誤りであることが分かった。人間はそういう仕組みを持っていない、大脳で消費するように出来ている。何の心配もない、というのが最近の学説である。大いに米、米ということで大いにパブコメを盛っていただければと思う。そういうことで、名称審査の副賞にはカレーを御用意した。

パブリック・コメントに答えていくという仕事はまだある。そして、答申、実行へと移って行く。

私は、1300年の歴史を踏まえ、今後千年先を見据えていくという観点で議論してきた。皆さんも、是非、千年先を見据えながら、これから実行していく段階で、色々な立場で御協力いただきたい。市長のこれからが勝負であるという言葉も踏まえたい。

立石会頭も仰っていただいたが、経済界も注目して資金をどんどん提供していただくことも大切である。参加と協働を合言葉にして、一緒に市民がこの計画を進めていく10年になれば、と考えている。

皆様の御協力によって仕上がった。ありがとうございました。

事務局（柴山総合企画局政策企画室長）

なお、本日御審議いただいた答申案については、11月4日に尾池会長から市長に御答申いただく予定としている。

それでは、これにて閉会とさせていただきます。

<了>